

教科センター方式について

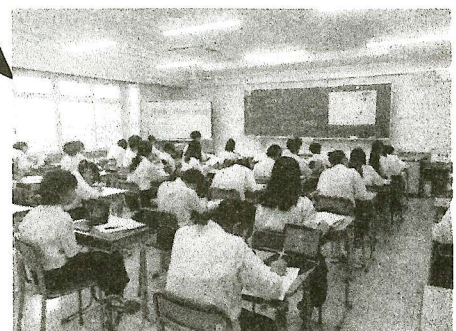
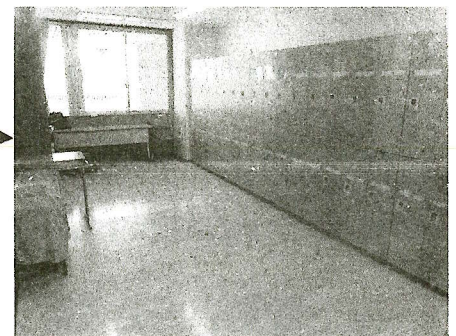
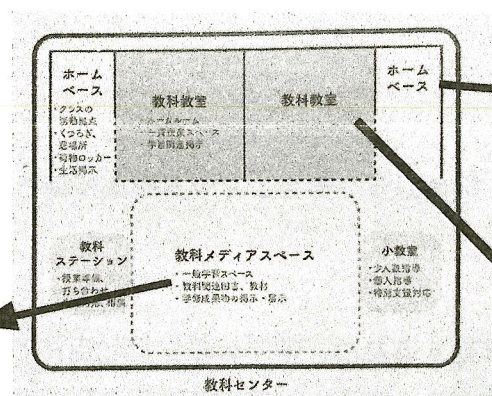
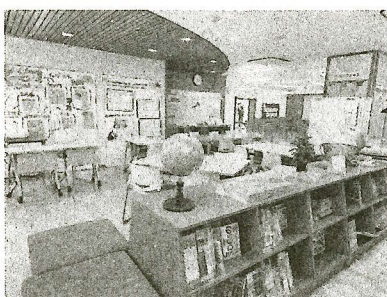
本校では、生徒の主体的な学びを充実させるため、「教科センター方式（ホームベース併設型）」を導入しています。小学校までの生活スタイルとは大きく異なる点が多いので、その目的や違い、そしてご家庭でサポートしていただきたいポイントについてまとめました。

1. 教科センター方式とは？（目的）

従来の中学校では、生徒は自分の普通教室に留まり、教科担任の先生が入れ替わり立ち代わりやってきて授業を行っていました。これに対し、教科センター方式では、教科ごとに専用の教室（数学教室、英語教室など）があり、時間割に合わせて生徒自身が教室を移動して授業を受けるシステムです。

【導入の主な目的】

- ◆ **主体性・自立心の育成**：次の授業に合わせて自分で時間を管理し、必要な教材を準備して移動する行動力を養います。
- ◆ **学習効果の向上（環境の専門化）**：教科教室には、その教科に関する図書、資料、地図、実験器具、作品などが常設されており、五感を刺激する質の高い学習環境が整っています。また、教師が準備する時間も少なくなるので授業に集中する時間も長くなります。
- ◆ **生徒の気持ちの切り替え**：教室を移動することで、チャイムに頼らず「これから〇〇の勉強をする」という知的なスイッチが自然と入ります。



2. 他の中学校との違い

項目	他の中学校	教科センター方式（本校）
授業を受ける場所	基本的に自分の教室	毎時間、教科ごとの専用教室へ生徒が移動
荷物・教科書の保管	自分の机の中や、教室の後ろの個人ロッカー	ホームベースが拠点(机の中や横に自分のものを置いてはいけない)
休み時間の過ごし方	自席で過ごす、または友達の席へ行く	次の授業の準備をし、教科教室へ移動する時間

3. 保護者の皆様へのサポートポイント

ご家庭では以下の点にご留意いただき、温かく見守り・サポートをお願いいたします。

① 持ち物の整理整頓と名前書きの徹底

毎時間のように荷物を持って移動するため、筆記用具や教科書、ノートの置き忘れが発生しやすくなります。全ての持ち物に必ず名前を書くようお子様とお確かめください。また、カバンやファイルの中身を整理し、必要なものをすぐ取り出せる習慣が大切になります。

② 「前日の準備」の習慣づけ

朝、学校に到着すると、まずホームベースと呼ばれるロッカーエリアで、授業に必要な教科書や教材をサブバッグ等に入れ替える作業が必要になります。登校直前に慌てないように、前日の夜に時間割を見て、必要なものを揃える習慣をこれまで以上に意識させてあげてください。

③ 準備するもの

様々な学年の生徒が教室を使用します。給食のランチョンマットを必ず持たせてください。

④ ご理解いただきたいこと

授業ごとに必要な授業道具を準備して移動するため、他学年の生徒と自然と関わる機会が増えます。また、本校の教室は開放的な設計となっており、廊下を往来する人々の様子が目に入る場面も多々ありますが、そのような環境でも落ち着いて学習に取り組む集中力が求められます。